

授業概要

本講義は、主として幕末から第二次世界大戦に至るまでの日米関係の歴史的展開とその構造について考察する。近代日本にとって、アメリカとの関係は日本の針路を決定する上で極めて重要な要素の一つであった。授業では、幕末以降の日米関係が両国と世界にどのような影響をもたらしたのかについて、協調と対立の諸相を明らかにしながら講義する。

なお、適宜ビデオ教材も使用しつつ、授業内容の理解を深めていくこととする。

授業計画

第1回	授業の進め方の説明
第2回	日米の遭遇と世界史への登場① アメリカの西進と日本への関心
第3回	日米の遭遇と世界史への登場② 日本の開国と条約改正
第4回	日露戦争と日米台頭の時代① 19世紀末の極東・太平洋情勢
第5回	日露戦争と日米台頭の時代② アメリカの東アジア政策の形成と日本
第6回	日露戦争と日米台頭の時代③ 日露戦争後の日本外交
第7回	第一次世界大戦と日米関係の再調整① 日本の参戦とアメリカ
第8回	第一次世界大戦と日米関係の再調整② アメリカの参戦と日本
第9回	第一次世界大戦と日米関係の再調整③ パリ講和会議
第10回	ワシントン体制① ワシントン会議
第11回	ワシントン体制② 移民問題をめぐる日米関係
第12回	日本の戦争とアメリカの不承認① 満州事変
第13回	日本の戦争とアメリカの不承認② アメリカの内政・外交の展開
第14回	日本の戦争とアメリカの不承認③ 日中戦争から日米開戦まで
第15回	「真珠湾」の衝撃
第16回	筆記試験

到達目標

現在、日本外交の基軸に置かれている日米関係は、歴史的にどのような展開を見せてきたのか。その形成、発展、摩擦のプロセスを理解することを通じて、各受講生が日米関係のあり方を考えるきっかけになることを目指したい。

履修上の注意

- (1) 日本近代史の基礎知識をある程度備えていることが望ましいが、少なくとも歴史に興味のある学生の受講を強く期待する。
- (2) 遅刻 3 回で欠席 1 回と見なす。

予習・復習

- (1) 授業で取り上げるテキストの箇所は、授業内容を理解しやすくするためにも、毎回必ず事前に読むなどの予習を徹底すること。
- (2) 授業の理解度をチェックするための小テストを適宜実施するので、復習を心がけること。

評価方法

学期末試験〔論述形式〕(70%)と小テスト(30%)の合計点で成績評価を行う。

テキスト

『日米関係史』五百旗頭 真編、有斐閣